名古屋大学文学部創立 70 年史
文学部と私

英語教育学
三輪晃司（MIWA Koji）

【学歴】カナダ・アルバータ大学文学部言語学科卒業 (2007 年)、同大学博士課程卒業 (2013 年)
【学位】Ph.D. (Linguistics)・2013 年
【職歴】ドイツ・テュービンゲン大学博士研究員 (2005 年)、名古屋大学国際言語文化研究科准教授 (2017 年)、名古屋大学人文学研究科准教授（2018 年）
【研究分野】心理言語学、単語認知、バイリンガリズム
【代表的な論文】Miwa, K., & Baayen, R. H. (2021). Nonlinearities in bilingual visual word recognition: An introduction to generalized additive modeling. *Bilingualism: Language and Cognition*, *24*(5), 825-832.
Miwa, K., Libben, G., & Ikemoto, Y. (2017). Visual trimorphemic compound recognition in a morphographic script. *Language, Cognition and Neuroscience*, *32*(1), 1-20.

カナダ、ドイツで計 12 年過ごした後、2015 年に名古屋大学に着任して以来、研究、研究指導、授業、人生のジャグリングに四苦八苦している愛知県瀬戸市出身の陰キャです。

研究は視覚的な単語認知が中心で、異なる言語使用者が異なる言語を異なる実験課題において処理する時にあたまの中で何か起こっているのか、参加者のみなさんから提供される表面的なデータ（ボタン押下時間等）から多変量解析手法を用いてもっともらしい答えを推測するということをしています。言語の処理がかなり速く行われることは周知の事実ですが（だからこの文章がすらすらと読まれている）、それを達成する認知的効率は仕事を減らすのではなく、多くの候補単語を同時の活性化するような一見非効率なメカニズムにより達成されているということが実験を行うことで見えてきます。ただ、publish or perish の世界で結果が保証されていない実験研究を誠実に行うことはストレスでもあります。

研究指導には毎週最低 5 時間を割いています。指導生が選ぶトピックは私のストライクゾーン（単語認知）に入っていませんが、少し外れたトピック（メタファーや言語相対論）で共同研究を進めることで自分のストライクゾーンが少しずつ広がっているように感じます。学生さんを第一著者とした共同研究では一緒に国際誌に出版することを目標にしています。

授業に関しては、学部の英語講義に加えて大学院で心理言語学関連の講義を行なっています。全ての講義は 100%英語で行うことを売りにしていますが、わかりやすい英語（ゆっくり話す、難しい言葉は使わない）を使うことを意識していたら、国際学会でもわかりやすいというコメントが届くほど自分の英語能力が成長したと感じています。大学院講義では心理言語学分野の自分の専門から外れたテーマも扱うことで自分自身の勉強にもなっています。

研究、研究指導、授業を上手にこなしたいものの、“非対称で動的なバランス” を人生のテーマとして、人間らしく心地よく生きることを最優先課題としています。社会は研究や教育など人生の一つの側面で秀でている人間を賞賛しがちですが、個人的には The 7 habits of highly effective people (Covey, 1989) を教本の一つとして社会が評価しない人生全体のバランスの良さと “じこまん” を大切にしています。「大学教員」の役割を与えられ、日々「先生」と崇め立てられ、否定的な意見を受けづらい環境で生きる中、自分が立派で正しい人間であるかのような錯覚を成長させて「先生」になりきらないよう、芽生えた錯覚をすぐに刈り取りながら、エビデンスの質と量に応じたレベルの主張をおちついてできるように冷静に生きていきたいです。